

「2014 年度 事業報告」

1. 2014 年度事業報告について

早稲田大学男女共同参画推進委員会は、2008 年 12 月に発表した 2017 年度までの中長期計画「男女共同参画基本計画」の実現に向けて、次のとおり 2014 年度の事業を実施した。

2014 年度の事業の中で特筆すべき点としては、2013 年度に実施した「早稲田大学の男女共同参画に関する意識・実態調査」の調査結果を踏まえ総長に提案書を提出し、教員人事における男女共同参画・ダイバーシティの積極的な推進を提案した結果、教員採用・昇進の人事審査において「国籍、性別、信条、障がい」を理由とするいかなる差別も行わない」ことを改めて学術院長会で確認、公募要領等に記載する日英の文言が決定したこと、かねてより提案していた職員、管理職の女性比率向上を目的とした研修について、人事課人材開発担当と協力し、「ダイバーシティと女性職員の一層の活躍を実現するための研修プログラム」が実現したこと、女子学生の就職・進学支援ならびに、人権・ジェンダー・労働に関わる教育の推進を目的として、2015 年度より、グローバルエデュケーションセンター設置科目「WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を学ぶ』」の開講が決定したことなどが挙げられる。

2. 2014 年度の具体的事業報告

1) 女性専任教員比率の向上

- ① 2014 年度は、2013 年度に実施した「早稲田大学の男女共同参画に関する意識・実態調査」の調査結果を踏まえ、教員人事における男女共同参画・ダイバーシティの積極的な推進について提案し、7 月 4 日の学術院長会において次のことを確認するにいたった。

「早稲田大学は創設当初から国際化と女子教育の重要性に留意してきたが、世界の流れの中で本学のダイバーシティのあり方も国際水準に合致させるために、以下のことを改めて確認する。早稲田大学は、教員採用・昇進の人事審査において、国籍、性別、信条、障がいを理由とするいかなる差別も行わない」

また、公募要領には以下の文章を明記することとした。

「早稲田大学は、国際化、男女共同参画などダイバーシティの実現を推進している。教員採用・昇進の人事審査において、国籍、性別、信条、障がいを理由とするいかなる差別も行わないことを申し合わせている」

“Waseda University is committed to enhancing the diversity of its faculty in order to promote globalization and gender equality on campus. In all matters related to faculty recruitment and promotion, the University prohibits any form of discrimination on the basis on national origin, gender, religion, creed, political affiliation, or disability.”

2) 女性専任職員および女性管理職比率の向上

- ① かねてより、人事課に提案していた女性職員をエンパワメントするための研修について、「ダイバーシティと女性職員の一層の活躍を実現するための研修プログラム」として、2014 年度より順次実施することになった（2014 年度実施分は以下のとおり）

| 実施日 | 名称 | 対象 | 参加者数 |
|------------|-----------------|----------------|------|
| 2015/01/17 | ダイバーシティマネジメント研修 | 管理職(部長・副部長級) | 30 名 |
| 2015/01/20 | ライフタイム・キャリア研修 | 女性専任職員 | 27 名 |
| 2015/01/27 | 職場復帰後セミナー | 育休から復帰した女性専任職員 | 7 名 |

- ② 教員採用に際し明記する 2. 1) の文言について、職員公募時も明記することになった。

3) 男女共同参画推進に対する教職員の意識向上

- ① 新規採用の教職員を対象とした以下の研修に、男女共同参画の講義を盛り込み、本学の「男女共同参画基本計画」を周知するとともに、男女共同参画推進への理解を深め、意識の共有化を図った。

○新入教職員への研修

| 研修実施日 | 研修名 | 場所 | 対象者 | 講師 |
|------------|-------------------|-----------------------|------|----------------|
| 2014/04/02 | 新任教員セミナー | 早稲田キャンパス8号館 B101 教室 | 149名 | 橋本学事総括 常任理事 |
| 2014/04/03 | 新入職員研修 (新卒・既卒) | 早稲田キャンパス大隈会館 N301 会議室 | 21名 | 白井教育研修 部会委員 |
| 2014/10/30 | 新入職員研修 (既卒) | 早稲田キャンパス大隈会館 N203 会議室 | 6名 | 崎山副委員長 |

- ② 教職員・学生・一般向けのシンポジウム、啓発セミナー、講演会等を以下のとおり開催。多くの本学構成員に、本学の「男女共同参画基本計画」を周知し、理解を求める機会を提供した。また、開催報告を Web サイトに掲出したほか、推進室が主催したセミナーや講演会等については、DVD に収録し、希望者が視聴できる機会を設けたほか、授業支援システム Course N@vi でオンデマンド配信するなど、当日参加できなかった者への配慮も行った。

○シンポジウム・講演会等の開催

| 開催日 | 内容 | 演題等 | 対象 | 参加人数 | 開催形態 |
|--------------------|------|--|-----------|------|--------|
| 2014/05/16 | 公開講座 | 「科学史とジェンダー ～科学はジェンダー中立か～」 | 学生・教職員・一般 | 18名 | 共催 |
| 2014/06/12 | 公開講座 | 「大学におけるジェンダー研究教育の意義－『ステイーズ』というスナック」 | 学生・教職員・一般 | 80名 | 後援 |
| 2014/11/07 | 講演会 | 「イクメンによるワークライフバランス講座第3弾『大人生活』を楽しむヒ・ケ・ツ～ライフ・イベント・ソーシャルの3つとも楽しもう～」 | 学生・教職員・一般 | 159名 | 主催 |
| 2014/10/04 | 講演会 | 「第10回未来の自分を発見しよう～OG と考えるこれが私の生きる道～」 | 学生 | 79名 | 協力 |
| 主催2回・協力1回・後援1回 計4回 | | | 計(前年比) | 336名 | (+11名) |

4) ライフイベントサポートシステムの改善と拡充

- ① ワークライフバランス・サポートセンター(以下、サポートセンターと略)では、学生・教職員を対象とした相談事業・交流事業を実施した。

相談事業では、例年通り学生の相談が多く、特に学部生の進路・就職相談についての支援が中心となっている。続いて多いのは、任期付き教員が、研究者として自立するためのキャリア支援及び出産・介護などのライフイベントの両立の支援であった。相談件数は前年度より減少した。

交流事業では、キャリア初期研究者を対象としたランチョン・ミーティングを各キャンパスで開催し、参加者がゲスト教員のロールモデルに触れる機会とした。また、新規企画として「両立ランチ会」を立ち上げ職員を対象とした第1回目を実施し、今後の開催につなげていくこととした。ライフイベントに役立てていただきたいと開催した各種講座やワークショップを以下交流事業一覧のとおり開催した。

○相談事業

| 相談件数 | (1)性別 | | (2)属性 | | | | (3)相談内容 (重複あり) | | | | | |
|--------|-------|----|-------|----|-----|-----|----------------|---------|----|--------|-----|-----|
| | 男性 | 女性 | 教員 | 職員 | 学生 | その他 | 進路 | ライフスタイル | 心理 | ハラスメント | 就活 | その他 |
| 56 | 7 | 49 | 13 | 8 | 35 | 0 | 17 | 17 | 0 | 1 | 20 | 1 |
| 前年比-14 | -6 | -8 | +6 | -1 | -16 | -3 | +14 | -2 | -3 | ±0 | -24 | +1 |

○交流事業

| 開催日 | 内容 | 演題等 | 対象 | 参加人数 | 開催形態 |
|--------------------|-------------|------------------------------|--------|------|---------------|
| 2014/05/26 | ランチン・ミーティング | 理工系女子集まりませんか？ (in 西早稲田) | 学生・教職員 | 1名 | 主催 |
| 2014/06/04 | セミナー | 鼎談 女性の仕事、生き方を語ろう | 学生・教職員 | 23名 | 主催 |
| 2014/06/20 | セミナー | プレゼン力UP講座 | 学生・教職員 | 115名 | 主催 |
| 2014/07/11 | セミナー | メール力UP講座 | 学生・教職員 | 41名 | 主催 |
| 2014/07/18 | ランチン・ミーティング | 文系研究者を目指す女性のみなさん集まれ！ (in 戸山) | 学生・教職員 | 7名 | 主催 |
| 2014/07/31 | ワークショップ | メンタルヘルスワークショップ | 学生・教職員 | 36名 | 主催 |
| 2014/09/19 | ワークショップ | 言語表現力UP講座 | 学生・教職員 | 12名 | 主催 |
| 2014/10/15 | ランチン・ミーティング | 研究者を目指す女性のみなさん集まれ！ (in 所沢) | 学生・教職員 | 18名 | 主催 |
| 2014/11/13 | セミナー | 働く自分のために心得ておきたい法の知識 | 学生・教職員 | 16名 | 主催 |
| 2014/11/20 | ランチン・ミーティング | 研究者を目指す女性のみなさん集まれ！ (in 早稲田) | 学生・教職員 | 2名 | 主催 |
| 2014/11/28 | セミナー | ワークライフバランス講座 (実践編) | 学生・教職員 | 12名 | 主催 |
| 2014/12/08 | ランチン・ミーティング | 研究とライフイベントの両立について話しませんか？ | 学生・教職員 | 3名 | 主催 |
| 2014/12/10 | 講座 | いつか子どもを思うなら今考えようライフプラン | 学生・教職員 | 7名 | 共催 (東京都主催) |
| 2015/01/22 | セミナー | 介護講座 | 学生・教職員 | 13名 | 主催 |
| 2015/02/03 | ランチ会 | 両立ランチ会 | 職員 | 14名 | 主催 |
| 主催 14回 共催 1回 計 15回 | | | 計(前年比) | 320名 | (+122名) |

② 所沢キャンパスの授乳・搾乳等支援施設について 2015 年度に設置することが決定し、関連箇所との検討を開始した。

③ 男女共同参画推進室のサポート施設利用者については、早稲田・西早稲田キャンパスともに減少傾向にある。前年度に比べ、会議やイベント等で閉室せざるを得ない時間が増加したことに加え、搾乳室の使用については、教職員の育児休職制度の浸透によりこれまでより長く休職する方が増え、勤務中の搾乳の必要性が低くなったことが考えられる。一方、大学院学生（博士後期課程）や非常勤講師の利用は定期的にあった。また、学生・教職員が子ども連れで来校する際の授乳室としての利用も一定程度あった。

○施設利用者

| 施設名 | a. 開室日 数 | b. 利用者数 | b./a. 日平均 | b.内訳 男性 | 女性 | 子供 |
|--|----------------|------------|--------------|------------|------|-----|
| 早稲田キャンパス10-213 事務所・相談室 | 191.5日 | 240名 | 1.3名 | 83名 | 142名 | 15名 |
| 西早稲田キャンパス60-214 ワークライフバランス・サポートセンター | 236日 | 293名 | 1.2名 | 133名 | 156名 | 4名 |
| | 計 | 533名 | — | 216名 | 298名 | 19名 |

- ④ サポートセンター相談員の研修を目的として、学内外の以下のシンポジウム・講演会・セミナー等に相談員を派遣した。

○研修

| 開催日 | | 内容 |
|----------------|----|--|
| 2014/08/08 | 学外 | 理系女性のキャリア 「理系女性×外資系×リアル」 |
| 2014/08/30, 31 | 学外 | 男女共同参画推進フォーラム～ひとりひとりの活躍が社会を創る～ |
| | | |
| 2014/10/04 | 学内 | 稲門女性ネットワーク・キャリアセンター主催「第10回自分の未来を発見しよう！」 |
| 2014/10/17 | 学外 | フォーラム「先の見えない介護—仕事との両立を目指して」 |
| 2014/10/26 | 学外 | 公開シンポジウム「発達障害を抱えた若者の就学・就労を支援する」—バリアフリーの観点から何が出来るか— |
| 2014/10/29 | 学外 | 理系で学ぶ 理系を生かす～理系女性の活躍促進のために～ |
| 2014/12/10 | 学内 | 東京都主催セミナー「いつか子どもを…と思うなら今考えよう！ライフプラン」 |

- ⑤ 『2008～2013年度ワークライフバランス・サポートセンター相談活動報告書』を作成し、Webサイト上で公表した。

- ⑥ 出産・育児・看(介)護等(ライフイベント)を支援するシステムを充実させるために、すでに学内にあるライフイベントサポート諸制度(大学の福利厚生事業、健康保険組合の保健事業「Benefit Station」による業務委託分)の確認を行い、リーフレットやニュースレター、Webサイトにおいて適宜周知した。

5) キャリア初期研究者への支援

- ① 交流事業でロールモデルとなる教員の協力を得てランチョンミーティングを開催し、ロールモデルに触れる機会を設けるとともに、参加者同士の交流の場とした。

6) 女子学生の就職・進学支援

- ① 2014年度も、グローバルエデュケーションセンター設置の男女共同参画への導入講座、「女性・しごと・ライフデザイン」「ウーマン・キャリアクリエイト講座」を継続して開講した。また、2013年度は休講していた「科学とジェンダー」を開講した。

○関連科目の開講・登録者数

| 科目名/担当教員 | 学期 | 2014年度 | (前年比) |
|-------------------------|-----|--------|-------|
| 女性・しごと・ライフデザイン/矢口徹也ほか | 春学期 | 42名 | (△2名) |
| 科学とジェンダー/中村采女ほか | 春学期 | 20名 | — |
| ウーマン・キャリアクリエイト講座/並木秀男ほか | 秋学期 | 193名 | (△7名) |

- ② 2014年10月に、女子学生の進学・就職支援のため、稲門女性ネットワーク(TWN)・キャリアセンターが主催した、主に、女子学生を対象としたキャリア支援セミナー「第10回自分の未来を発見しよう～OGと考える「これが私の生きる道」～」に協力した。
- ③ 2015年度より、グローバルエデュケーションセンター設置科目「WSCメンバーズ基金寄附講座『ダイバーシティ・男女共同参画を学ぶ』」の準備を行った。

7) 人権・ジェンダー・労働に関わる教育・研究の推進

- ① 関連科目のデータベース化と補完・強化すべき分野を検討し、2014年度開講科目について、男女共同参画に関連するキーワードによる抽出作業を行い、Webサイトで科目を紹介した。
- ② グローバルエデュケーションセンターが設置する、新入生を対象としたオンデマンド授業「わせだライフABC」に盛り込む男女共同参画に関するコンテンツを引き続き提供した。
- ③ 講演会・シンポジウムの模様を男女共同参画推進室提供講座として、授業支援システム Course N@vi にて、オンデマンド配信した。
- ④ 競技スポーツセンターとの懇談を実施し、2014年度から始まった体育各部所属の学生向けのプログラム「早稲田アスリートプログラム」に、男女共同参画に関する内容を盛り込むよう依頼し、2015年度からの実施が決定した。

○オンデマンド授業

| 科目名/テーマ名/講師 | 2014年度 受講者数 |
|--|----------------|
| わせだライフABC/男女共同参画とは何かを考えてみよう/川田元委員長 | 238名 |
| 〔男女共同参画推進室提供講座〕 女性への大学教育の開放：早稲田大学の場合－彼女は彼女たちから始まった－(2009年10月19日収録) | 189名 |
| 〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座～フューチャーリンクが社会を変える！～(2011年10月21日収録) | 156名 |
| 〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座第2弾 これからの日本企業での働き方～ダイバーシティ・マネジメント実践術～(2012年10月19日収録) | 165名 |
| 〔男女共同参画推進室提供講座〕 シンポジウム「大学における男女共同参画の現状と課題」(2013年8月1日収録) | 259名 |
| 〔男女共同参画推進室提供講座〕 クメンによるワークライフバランス講座第3弾 「大人生活」を充実させるヒ・ケ・ツ～ライフ・ビジネス・ソーシャルの3つとも楽しもう～(2014年11月7日収録) | 74名 |

8) 国内外の大学および研究機関との交流

- ① 学内他箇所が主催する男女共同参画に関連するイベントについては、協賛・後援箇所等として支援し、Webサイトやニュースレターに案内や報告を掲載した。
- ② 委員会委員・部会委員・事務局スタッフは、学内外のワークショップ・シンポジウム・講演会等の講師を務めるほか、積極的に参加し、情報収集、意見交換を実施した。

○参加講演会・シンポジウム等

| 開催日 | 主催者 | 演題等 | 参加形態 |
|------------|--------------------------------|--------------------------------|------|
| 2014/05/08 | 日本法社会学会 | 62期弁護士追跡調査 「ジェンダーの視点から見た分析」 | 報告 |
| 2014/06/07 | 神奈川県立かながわ女性センター | 「女性の参画が社会を変える」 | 演者 |
| 2014/06/12 | (学内)ジェンダー研究所・グローバルエデュケーションセンター | 全学共通副専攻「ジェンダー研究」キックオフ記念講演会 | 一般参加 |
| 2014/06/15 | 岩手県 | いわて男女共同参画フェスティバル2014 | 分科会登 |

| | | | 壇 |
|-------------------|--|--|---------------|
| 2014/06/19 | 日本政策投資銀行 | 「第3回DBJ女性新ビジネスコンペティション」 審査結果発表・表彰式 | 一般参加 |
| 2014/06/21 | もりおか女性センター | 男女共同参画週間もりおか展 2014 講演 会・シンポジウム | 一般参加 |
| 2014/06/27 | 内閣府男女共同参 画推進局 | 平成26年度「男女共同参画社会づくりに 向けての全国会議」 | 一般参加 |
| 2014/06/27 | 多摩市立 TAMA 女 性センター | 「女が得？男が得？自分らしい生き方と 男女平等参画条例」 | 演者 |
| 2014/06/28 | 日本学術会議・法 学委員会ジェンダー 法分科会 | 「法の世界とジェンダー～司法と立法を 変えることはできるのか」 | 演者 |
| 2014/07/01 ～02 | APRU | APWiL 男女共同参画 Workshop 京都大学 | 一般参加 |
| 2014/08/08 | 上智大学 | 理系女性のキャリア「理系女性×外資系×リアル」 | 一般参加 |
| 2014/08/29 | 国立女性教育会館 | 平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」 | 一般参加 |
| 2014/08/30 | 国立女性教育会館 | 平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」 | 一般参加 |
| 2014/08/31 | 国立女性教育会館 | 平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」 | 一般参加 |
| 2014/09/20 | 日本体力医学会 | 第69回日本体力医学会シンポジウム11 「日本体力医学界新評議員の研究・キャリア」 | 登壇 |
| 2014/09/20 | ドイツ研究振興協会 日本代表部・日本 大学・津田塾大学・ 東京都市大学 | 日独国際シンポジウム 「学術研究職におけるジェンダー：ドイツ取組 みの実践例-男女共同参画、多様性と機会 均等、仕事と生活の調和」 | 一般参加 |
| 2014/09/24 | 岩手県若者女性協 働推進室 | 「防災・復興について考えよう～男女共同 参画の視点から～」 | 演者 |
| 2014/10/12 | 福島県男女共生セ ンター | 「3・11 後の支援者同士のネットワーク構築と学 びあうコミュニティの形成～復興支援アウトド アからふくしまの未来を考える～」 | 報告 |
| 2014/10/17 | 首都大学東京 | フォーラム「先の見えない介護-仕事との両立を 目指して」 | 一般参加 |
| 2014/10/22 | 早稲田大学・慶応 大学・延世大学、 高麗大学 | 「第13回日韓シニアフォーラム次世代の日韓関 係」研究者セッション「日韓社会と大学におけ る男女共同参画とダイバーシティ推進」 | 演者/ 一般参加 |
| 2014/10/24 | オックスフォード・シ ンガポール、 GenderAction Platform (GAP) | 衆議院院内集会「女性活躍」と「地方創生」 | 一般参加 |
| 2014/10/26 | 東京大学大学院教 育学研究所附属バ リアフリー教育開発研 究センター | 公開シンポジウム「発達障害を抱えた若者の就 学・就労を支援する」- バリアフリーの観 点から何ができるか - | 一般参加 |
| 2014/10/29 | 千葉大学・千葉県 男女共同参画センター | 理系で学ぶ、理系を活かす！～理系女性の 活躍促進のために～ | 一般参加 |
| 2014/10/31 | 均等待遇アクション21 | 「女性の活躍法を真のポジティブ・アクションに」 | 報告 |
| 2014/11/21 | 国立女性教育会館 | 「平成26年度 NVEC 国際シンポジウム ダイバ -シティ推進と女性のリーダーシップ」 | 報告 / 一 般参加 |
| 2014/11/26 | 文部科学省 | 女性研究者活動支援事業シンポジウム 2014- 女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント | 一般参加 |
| 2014/11/29 | 民主主義科学者協 会法律部会 | 「2014年度学術大会」 「法学教育にジェンダー視点を導入する意義 | 報告 |

| | | | |
|---------------|-------------------|--|------|
| | | と方法] | |
| 2014/12/03 | 内閣府 | 防災・復興における女性の参画とリーダーシップ～第3回国連防災世界会議に向けてのシンポジウム～ | 一般参加 |
| 2014/12/06 | ジェンダー法学会 | 「第12回ジェンダー法学会学術大会」 | 講師 |
| 2014/12/07 | ジェンダー法学会 | 女性弁護士のガラスの天井の構造分析 | 演者 |
| 2014/12/13 | 復興庁、福島県男女共生センター | パネルディスカッション「女性の活躍が復興を加速する！」 | 一般参加 |
| 2014/12/14 | 千葉女性会議 | 「2014年度千葉市男女共同参画センターまつり」 | 演者 |
| 2014/12/20 | (学内)教育総合研究所 | LGBT問題と教育現場ーいま、わたしたちができることー | 一般参加 |
| 2015/02/18 | 国際婦人年連絡会 | 「2014年度セミナー」 | 演者 |
| 2015/02/21 | 千葉市男女共同参画センター | 「男女共同参画講座 働く女性の現在・過去・未来」 | 演者 |
| 2015/02/26 | Innovation Nippon | 女性が21世紀のイノベーションをリードするWing 第2回シンポジウム～イノベーション人材の育成と女性の活躍～ | 一般参加 |
| 2015/03/04 | 京都産業大学 | 女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウム「大学におけるダイバーシティ推進の意義と効果」 | 演者 |
| 2015/03/09～11 | APRU APWill | Workshop in Auckland, NZ | 一般参加 |
| 2015/03/15 | 国際連合 | 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館シンポジウム「あるってだいじ～災害時の男女共同参画センターの役割とは」 | 一般参加 |
| 2015/03/22 | 多摩市 | 「男女平等条例を考える」 | 演者 |

9) 長期的な展望にたつ男女共同参画の推進

- ① 2008年12月に発表した中長期計画「男女共同参画基本計画」の実現、さらに、2012年11月に発表した「Waseda Vision 150」の目標達成に向けて、2014年度事業計画を実施するとともに、男女共同参画・ダイバーシティの推進PJと連携し、実行可能な取り組みについて検討した。また、2013年度の事業報告を作成し、Webサイト上で広く学内外に公表するとともに、その報告内容・実績を踏まえ、2015年度事業計画を策定した。なお、事業の実施と計画立案にあたり、以下のとおり、委員会・部会等を開催した。

○会議等の開催状況

| 会議体名 | 開催数 | 開催日・回 |
|------------|-----|---|
| 委員会 | 4回 | 6/19 第20回(第4期3回)、9/18 第21回(第4期4回)、12/19 第22回(第4期5回)、2/27 第23回(第4期6回) ※幹事会の開催なし |
| 教育研修部会 | 2回 | 4/4 第27回(第4期2回)、1/21 第28回(第4期3回) |
| 制度環境部会 | 2回 | 5/12 第32回(第4期2回)、9/14 第33回(第4期3回) |
| 広報調査部会 | 3回 | 5/15 第32回(第4期2回)、9/5 第33回(第4期3回)、12/3 第34回(第4期4回) |
| サポートセンター部会 | 4回 | 7/14 第24回(第4期3回)、9/9 第25回(第4期4回)、1/13 第26回(第4期5回)、3/18 第27回(第4期6回) |

- ② 2014年度末の事務局体制は次のとおり、2013年度末と比べ1名増員となった。
 スタッフ数：7名 (2015年3月現在)
 (内訳：管理職1、専任職員2、常勤嘱託1、派遣1、相談員2)

10) 男女共同参画に必要な各種調査の実施

- ① 他大学・学外機関からの調査等について、以下のとおり協力した。

○学外からの調査依頼等

| 依頼月 | 依頼機関 | 調査内容 |
|---------|------------------------------------|------------------------|
| 2015/02 | 環太平洋大学協会 (APRU) | 女性の学内でのポジション等に関するアンケート |
| 2015/02 | 文部科学省 科学技術学術政策局 人材政策課人材政策推進室 | 女性研究者支援に関する取組に関する調査 |

11) 男女共同参画の進捗状況の周知

- ① 本学における男女共同参画推進の取り組み、現状や制度の概要等を紹介することを目的としたリーフレット (2種類) を発行した。

○リーフレット

| タイトル | 発行年月 | 発行部数 | 配布対象 |
|-----------------------------|---------|---------|----------------------------------|
| 専任教職員用 早稲田でも進めています男女共同参画 | 2014/10 | 5,000部 | 専任教職員 |
| ワークライフバランスサポート案内 | 2014/10 | 25,000部 | 全ての教職員(非常勤・派遣も含む)・大学院学生、希望する学部学生 |

- ② 2009年3月に創刊したニュースレターについて、引き続き、2014年10月に第12号を発行、さらに、2015年4月発行の第13号の校正編集作業を実施した。

○ニュースレター

| タイトル | 発行年月 | 発行部数 | 配布対象 |
|---------------|---------|---------|----------------------------------|
| さんかくニュースNo.12 | 2014/10 | 25,000部 | 全ての教職員(非常勤・派遣も含む)・大学院学生、希望する学部学生 |
| さんかくニュースNo.13 | 2015/04 | 25,000部 | 大学院学生、希望する学部学生 |

- ③ Web サイトによる情報発信の充実を図るため、男女共同参画推進に関連する学内外の情報を、ニュース・イベントとして速やかに掲出した。

- ④ 既存の学内広報物に、適宜、記事・話題を提供した。

○『早稲田ウィークリー』1360号 (2015年4月1日付) 学生部発行

【学生生活で悩んだり困ったりしたら・・・すぐに相談を！】

「5 ライフイベントとの両立について知りたいときは」

男女共同参画推進室 西早稲田キャンパス 60号館の紹介掲載

○『CAMPUS NOW』広報室広報課発行

・210号 (2014 早春号)

「My study, my career」 国際学術院専任講師 東玲奈

・212号 (2014 盛夏号)

「研究最前線」 人間科学学術院助教 玉城絵美

・214号 (2015 早春号)

「世界へ向けて大学を開放する “Waseda Ocean 構想”」

○『早稲田大学キャンパスハンドブック』2015年度版 学生部発行

「男女共同参画推進室」

ワークライフバランス・サポートセンター60号館の紹介掲載

○『留学生ハンドブック』留学センター発行

【早稲田大学と諸施設】
「授乳室・搾乳室」掲載
【28. 大学の取り組み】
「男女共同参画の推進」掲載

- 『教員お役立ち情報 2015』大学総合研究センター
【仕事とライフイベントの両立に役立つ制度を知りたい】掲載
- 『みらい設計ハンドブック 2015』キャリアセンター発行
【必ず見つかる成長の場所 学内プログラム一覧】
- 『理工の達人 2015』理工学術院統合事務・技術センター技術部技術企画総務課発行
【男女共同参画推進室ワークライフバランス・サポートセンター】
交流エリア写真と 2014 年度交流事業実施例の掲載
- 『学生対応 Q & A 2015』学生部発行
【学業・研究（仕事）とライフイベントとの両立に悩みを抱えている学生がいる場合について】
[連絡先] 男女共同参画推進室ワークライフバランス・サポートセンター 紹介掲載
- ⑤ 学外からの取材・講演依頼に適宜対応し、早稲田大学における男女共同参画推進および委員の情報を提供した。
- 『2015 年版 大学ランキング』週刊朝日進学 MOOK 朝日新聞出版発行
【教育 44 女性教員ランキング】
「意識改革、環境改善、採用人事の改革」浅倉むつ子 法学学術院教授
- 『新宿区男女共同参画情報誌 ウィズ新宿 120 号』新宿区役所発行
【いきいき生きる『女と男の働き方』】
「大学の制度を利用することで WLB を実践し自身のキャリアを継続している女性研究者」折井（秋田）麻美子 教育・総合科学学術院准教授
- 『大学ガイドブック』国立女性教育会館発行
【大学における男女共同参画の促進】
「第 3 章 だれもが働きやすい男女共同参画の環境づくり」
早稲田大学男女共同参画推進の取り組み 紹介

以 上